

都道府県 番号 15	学校名 新潟県立長岡明德高等学校	課程 定時制	学科 普通科	指定期間 29
---------------	---------------------	-----------	-----------	------------

平成29年度 高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業 実施報告書（成果報告書）（要約）

1 研究開発課題

「関係機関との連携による、高等学校における通級指導の具体的な計画内容の立案・評価方法の策定、および周辺高等学校との連携のあり方についての研究」

2 研究の概要

地域の中学校の通級指導の内容をふまえ、継続した指導を実現するべく教育課程を編成する。また、高等学校段階で身につけるべき社会参加の基盤を培うための通級指導のあり方、指導内容を研究する。さらに、地域の拠点校として、周辺の高等学校と新たな連携が生まれるよう、教育内容を発信し、共有する。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究開始時の現状分析と研究の目的

①現状分析

- ・在籍する生徒のうち、約3割の生徒が何らかの特別支援を必要としており、中学校で特別支援学級に在籍していた生徒、あるいは、通級指導を受けてきた生徒も多く在籍している。現在、特別支援教育推進委員会を中心に全生徒を対象にコミュニケーション学習会やソーシャルスキルトレーニングを取り入れているが、特別支援学級や通級で受けてきた自立活動の指導は継続できていない状況にある。また、高校に適応し卒業が見通せたとしても、卒業と同時に社会参加を行うにはまだ様々なスキルが不足している生徒も多くいるのが現状である。
- ・周辺高等学校間での特別支援教育に係る連携が十分とはいえない状況である。

②研究の目的

- ・中学校からの継続した支援体制及び、自立活動を含む特別の教育課程を編成することにより、円滑に社会参加を行えるような支援体制を構築する。
- ・生徒の自己分析に役立ち、目標設定や目標達成に対する主体的な行動を引き出すことができる評価方法を探る。
- ・関係機関と連携し、地域の高等学校の特別支援拠点校として周辺高等学校とそれぞれの学校に合った通級指導の導入に関しての情報・指導法の共有を図る。

(2) 研究仮説

- ・地域の中学校及び特別支援学校、外部の専門機関との連携を図ることにより、障害等による学習上または生活上の困難を抱える生徒の継続的支援を可能とするとともに、その困難を主体的に改善・克服するための適切な自立指導計画を策定することができる。
- ・自立指導の内容に対して適切な指導方法を追求することにより、生徒の自己理解を深め、自らの目標を主体的に考えるようになる。
- ・関係機関と連携し地域の高等学校の特別支援教育の拠点となることにより、周辺高校に特別支援教育に関しての情報を発信・共有することができる。

(3) 必要となる教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
「自立活動」の設置	自立活動講座 「自己探究Ⅰ」「自己探究Ⅱ」 ライフスキル・学習スキル・コミュニケーションスキル・ソーシャルスキルの向上を目指した通級指導教室における指導。 「職業研究」 コミュニケーションスキル・ソーシャルスキルの向上を目指すとともに、作業訓練等を通じて円滑な社会への移行・社会への適応力をつけることを目指した通級指導教室における指導。	「自己探究Ⅰ」 「自己探究Ⅱ」 「職業研究」 各週1単位時間、 年間35時間 1単位

(4) 研究成果の評価方法

- ・運営指導委員会の意見聴取
- ・自立活動の内容について協議した機関へのアンケート分析
- ・周辺高等学校の参加教職員へのアンケート分析
- ・本校教職員へのアンケート分析
- ・受講生徒、保護者、担任からの聞き取り

4 研究の経過等

(1) 取組の内容

中学校からの継続した特別支援教育の実施に向けて、地域の中学校及び特別支援学校との連携を図り、他機関で実施されている自立活動の指導内容について精査することを試みた。さらに社会への出口となる高校において、円滑な社会への移行を可能とするための自己管理

力・コミュニケーション力・社会実践力などを身につけることができる自立活動のあり方や指導内容を追求し、それぞれの活動内容に合わせた評価方法を考察し、評価様式を作成した。また、周辺高等学校および定時制・通信制高校と通級指導についての情報の共有を図ることにより、それぞれの学校に合う通級指導の導入に向け、連携のあり方を探った。

	「通級による指導」に関わる検討・作業	その他の取組（視察等を除く）
4月	校内体制(通級WG)立ち上げ Q&A集等により通級指導の基礎的情報を収集 先進校の取り組みについてまとめる ⇒本校で活用できそうな情報を整理する 校内連携体制の検討・検討する必要性がある項目を整理	
5月	引き続き情報収集 職員研修会の計画 教育課程・『通級指導』の実施方法・使用教室の検討	
6月	講座内容・講座名・指導内容・担当者の検討 指導対象者の基本方針を検討 視察先の検討、研修会等の情報あつめ 第1回職員研修会の準備	
7月	自立活動指導案の作成	第1回運営指導委員会(7/4) 第1回職員研修会(7/25)
8月	受講対象者生徒ピックアップ方法の検討 生徒の情報の収集方法の検討 チェックシート・スクリーニングテストの内容検討	
9月	生徒・保護者への説明内容・周知方法の検討 自立活動の指導の試行について検討 (教育課程の再検討) 第2回職員研修会の準備	第1回周辺高等学校、定時制・通信制高等学校との連携協議会(9/12)
10月	生徒のピックアップリスト作成 チェックシート職員配付→回収 自立活動の指導の試行『スキル講座』の実施方法検討	第2回職員研修会(10/3)
11月	自立活動の授業見学会の検討 保護者説明会の準備・説明内容、申込の流れの検討 スクリーニングテスト実施→採点	第2回運営指導委員会(11/1)

12月	『スキル講座』の指導案作成・実施 チェックシート・スクリーニングテストのデータ入力 4者面談の準備、面接シートの作成	第1回周辺高等学校、定時制・通信制高等学校との連携協議会 (12/13) 校外研修：自立活動の授業見学会 (12/5・7・8)
1月	講座申込者に対し、4者面談の実施 受講生徒決定に向けた生徒情報の整理、資料作成 受講生のグループ化の検討	
2月	合同職員会議で受講生徒・グループ化について決定 時間割の決定・申込者への連絡（担任より） （午前部生徒）履修変更 『個別の指導計画』作成会議→『個別指導計画』作成	第3回運営指導委員会(2/6) 事業報告会(2/28)
3月	4者面談による合意形成 来年度授業開始に向けた準備 次年度の『職業研究』の年間計画等の決定	

※4者面談の4者=生徒本人・保護者・担任・通級WG

（2）評価に関する取組

3回の運営指導委員会においては、本校における取組の状況、本校における「通級による指導」の在り方、説明方法、対象生徒の決定等について意見等を伺い、評価をしていただいた。周辺高等学校への情報提供と連携を目指した「周辺高等学校、定時制・通信制高校との連携協議会」においては、本校における検討内容やグループ協議を通じてご意見等をもらうことができた。本校職員においては、職員研修会・検討内容報告会・事業&通級通信を通じて、疑問や意見を吸いあげながら共通理解に努めた。自立活動の指導の試行と位置付けて行った「スキル講座」を受講した生徒からは受講した後のアンケートを通じて、保護者・担任においては申し込み後の面談や個別指導計画作成の面談および会議で講座への期待や要望を聞くことができた。

5 研究開発の成果

（1）実施による効果

- ・本事業における取組を通じて、予防・早期発見を目的としユニバーサルな対応（全生徒対象）を進めるために、本校の特別支援体制を再確認することができた。
- ・校外研修（特別支援学校・聾学校における自立活動の授業見学会）、研修会・研究発表会への参加、他校への視察（先進校・通級指導教室等）を通じて、特別支援および「通級による指導」について多くの情報を得ることができ、本校での検討に活かすことができた。
- ・「通級による指導」の対象の検討、本校生徒および生徒個別の実態の収集方法の検討、

そして、それらの検討結果の実践により、より本校生徒のニーズにあった「通級による指導」の実施方法や指導内容を検討することができた。

- ・本校生徒の実態に合わせた「通級指導の在り方」、評価方法、校内での連携や情報共有の在り方の土台を構築することができた。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- ・本校の実態と県の方向性をふまえて「通級による指導」の在り方を調整していく必要がある。
- ・1年間を通じて様々な検討を重ねてきたが、実施に当たってはまだ検討が十分でないことも多く残されている。平成30年度の実施を通じてさらに検討を重ねて、安定した持続可能な「通級による指導」を作り上げていくために、校内体制の構築と情報共有の方法を探る必要がある。

(3) 次年度に向けた準備状況

次年度の年間の作業計画を、次の表にまとめた。

平成30年度の主たる作業の予定（午前部：現在の予定）	
およその時期が想定される作業	校内行事等に合わせて実施していく作業
4月 新体制への業務移行 受講者・『個別の指導計画』について情報共有 授業準備・授業担当者会議〈通年〉 生徒情報の収集方法検討	職員研修会①（情報共有） 生徒の情報収集のための適性 検査実施（2年次以上）
5月 『職業研究』夏休み中の授業計画	新1年次生、スクリーニング
6月 第1期の評価・第2期の目標決定の4者面談 次年度通級指導のためのピックアップリスト作成	テストの実施 特別な配慮が必要な生徒実態
7月 〔自立活動講座〕について説明プリント配付 保護者説明会申込締め切り 『職業研究』授業実施（予定3日間）	調査の実施
8月 保護者説明会の実施	職員研修会②（「通級による
9月 次年度受講希望者申込 教職員によるチェックシート配付 →集計	指導」について）
10月 次年度受講希望者の4者面談	

第2期の評価・第3期の目標設定の4者面談		
11月	受講者決定 次年度受講予定者の『個別の指導計画』作成会議	
12月	次年度受講予定者の『個別の指導計画』作成	
1月	受講生の年間評価の準備 第3期の評価・1年間の評価の4者面談 次年度受講予定者の合意形成	職員報告会（1年間の取り組み 報告および次年度の計画の情報 共有）
2月	成績表・成績査定資料作成	
3月	次年度に向けた準備	